

平成28年度の各会計予算を審査する予算特別委員会(若柳良明委員長、藤原伸副委員長・3月9日～11日)での質疑(Q)と答弁(A)のいくつかを要約して紹介します。

質疑あれこれ

花巻コールドセンター補助金返還は

Q 花巻コールドセンター破綻に伴う補助金返還について、予算化されていない理由を伺う。

A 県も市も被害者であり、市だけが負担するのはいかがかとは思いますが、返還を拒否することは難しい。きつちり精査しながら同じ立場にある奥州市や一関市と十分話し合い、その上で検討する。

とから、社会福祉協議会では関係自治体にも応分の負担を求めている。

はなまき婚シェルジュの年齢要件は

Q 応募資格を50歳未満とした理由と応募人数について伺う。

A 結婚支援団体との連絡協議会の中で意見があり、婚活参加者の年齢層に合わせて話しやすく、自らの体験談も話せる人ということで50歳未満と設定した。目標10組に対して夫婦3組の応募である。コンシェルジュには10回程度の研修を受講していたことを想定している。婚活支援団体育成事業も同時に進め、見直すべき点があれば今後検討する。

イーハトーブ養育センターの建設に係る市の補助金は事業費の55%を超えるが、この点の認識を伺う。

Q イーハトーブ養育センターの建設に係る市の補助金は事業費の55%を超えるが、この点の認識を伺う。

A 平成28年度は基本設計をする予定。社会福祉協議会が事業主体となることで、国、県からの補助金が受けられるが、自己資金分についてサービス利用料への上乗せが難しいため、市が支援しようとするものである。また、他市町村の利用者もいるこ



平成28年4月、新施設に移転した八重畑学童クラブ

大規模学童クラブの解消は

Q 平成31年度までに40人以上の大規模学童クラブを解消する方向で間違いないか。

A 市内21学童クラブ中、15クラブが40人以上で、

ごみ排出割合の見込みは

Q 平成28年度のごみ排出割合をどのように見込んだのか伺う。

A 岩手中部広域行政組

解消済みは2クラブ。子どもたちの環境を考え、イーハトーブ花巻子育て応援プランで示しているとおおり、おおむね40人という規模に向け学童クラブと協議しながら進めたい。

合構成市町から排出されるごみのうち、当市分が51.2%の見込み。現在の一般廃棄物処理基本計画で見込んだ量と乖離があり、第2次計画では実態に即した目標値とした。

ジョブカフェはなまきの就労支援対象は

Q 就労支援対象者は今後35歳以下とするのか。

A ジョブカフェ設置の趣旨が若年フリーター対策であり、35歳未満を対

象としているが、35歳以上の方にもキャリアアカウンセリングやセミナー等を開催し対応している。

有害鳥獣対策事業について

Q 事業実施主体の猟友会の実態と担い手不足への対応は。

A 市が実施隊として委嘱しているのは猟友会員110名。会員は高齢化している。銃器や罠を使用している捕獲や追い払いは安全への配慮が重要であり、免許取得講習会開催の周知等、若い担い手の確保に努めていきたい。

西南地区「道の駅」整備の市の関わりは

Q 調査委託の目的と市の関わりを伺う。

A 基本構想の策定に必要な各種調査を委託する。駐車場、トイレ等の道路管理者が設置する施設以外の施設、例えば産直や食堂といった地域振興施設及び付随施設を市が整備する。

産学共同研究の成果は

Q 複合デバイス技術研究開発推進事業の研究成果と本市にもたらした経済効果をどのように分析されているか。

A 岩手大学との産学共同研究は平成26年度で6件、延べで18件の実績があり、現在も4社、そのうち市内企業2社が共同研究を継続している。経済波及効果は数字で把握するのは困難だが、市内企業ニーズの対応、人材育成、地域連携での指標は全てクリアしている。

農業女子プロジェクトの展開は

Q 農業女子のネットワークを構築した後の狙いや市内企業との連携について伺う。

A 女性の担い手の仲間づくりが狙い。首都圏の農業関係の学校で学んでいる女性もいるので、後々は花巻への移住・就業を働きかける。また、農機具メーカーが女性でも使いやすい機械の開発を目指していることから、

スマートアグリ推進事業について

Q GPS基地局(人工衛星からのGPS電波の誤差を補正する装置を設置することにより、電波受信機能を搭載した農業機械では、ほ場内の走行経路を記録できるので、代掻き等の際に作業効率がよくなる)の設置場所と必要数、設置にかかる財源は。

結び付けていきたい。

A GPS基地局(人工衛星からのGPS電波の誤差を補正する装置を設置することにより、電波受信機能を搭載した農業機械では、ほ場内の走行経路を記録できるので、代掻き等の際に作業効率がよくなる)の設置場所と必要数、設置にかかる財源は。

市内マップの作成は

Q 岩手国体を控え、市内の商店や飲食店を紹介するマップを作成・配布し、マップを持参すれば商品等の割引が受けられるサービスを実施する考えはないか。

A 準備が間に合うかどうかという問題があるが、商店街や商工会議所関係団体と協議し、可能であれば取り組んでいきたい。



GPS基地局の設置により作業の効率化が図られる

学校地域連携事業の実施地域選定は

Q 学校地域連携事業における地域コーディネーターの配置を2地域とし

総合花巻病院移転補助金の内容は

Q 補助金の内容及び移転整備検討委員会での協議が続いている中で、なぜ補助金の予算が提案されているのか伺う。

A 病院建設に関する実施設計と、それに先んじての土地の調査等の経費である。

国と市が同額をそれぞれ事業主体に補助する制度を活用する。平成28年度に国の補助内示が行われる見込みであり、本市としても予算措置をしようとするものである。

ことばの教室巡回指導員は十分か

Q 指導員を4名配置予定であるが、指導を必要



ことばの教室で使用する、発音トレーニング用の器材

と理由とその地域名を伺う。

A 湯口小学校区と矢沢小学校区での配置を考慮している。モデル地域として先行実施し、市内全域に広げていこうとするもので、相互に情報交換しながら取り組むことによる効果も期待している。

とする人数に対して十分か伺う。

A 平成27年度は他の学校から通級している児童が63名、指導が必要ではあるが通級していない児童が35名で合わせて98名いる。指導員4名で、一人当たり25名の指導となる。花巻小学校に配置されている2名の教諭も交互に近くの学校に向いて指導すると100名程度の児童を5名で指導するため指導員一人当たり20名となるので指導可能と考えている。